

水泳ニッポンの父

田畑政治

THE HISTORY OF
MASAJI TABATA



水泳にかけた青春 選手から指導者へ

田畑政治は1898年(明治31年)、浜名郡浜松町成子(現・浜松市中区成子町)で誕生した。造り酒屋「八百庄」の次男として、裕福な家庭で育つ。しかし、男が短命の家系で、田畑自身も体があまり丈夫でなかったため、幼少期から浜名湖で泳ぎ鍛えていたという。当時から浜名湖は水泳が盛んな地域。浜松中学校(現・浜松北高)でも、8月に弁天島で厳しい水泳訓練を行うのが慣例となっており、訓練のクライマックスは庄内半島の村櫛から都田川河口の気賀までを泳ぐ大遠泳であった。水泳時間は6時間を超え、完泳率は4割以下という中、田畑



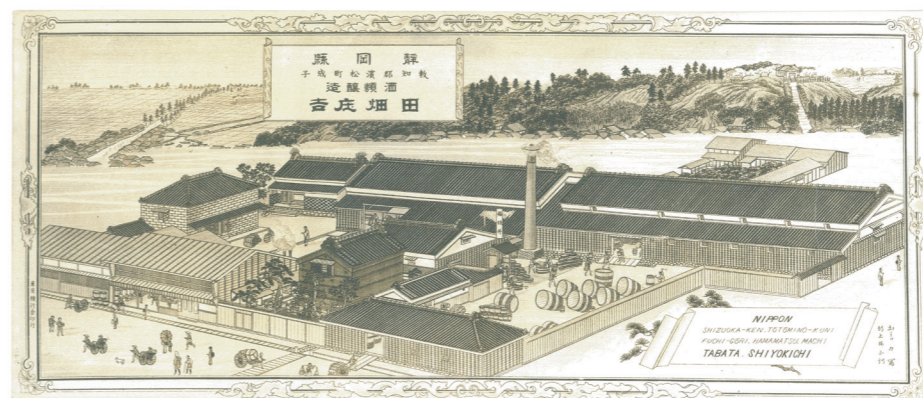
第一高等学校時代の田畑

は1年生の時から見事に完泳した。しかし4年生の時、慢性盲腸炎に大腸カタルを併発するという病に侵されてしまう。そんな状態でありながらも5年生の時の大遠泳で泳ぎ切るが、医師から水泳をやめるように諭されたため、断腸の思いで水泳選手への道を断念、世界を目指せる実力があつたからこそ、その悔しさは計り知れない。しかし、田畑の「世界」へのこだわりは変わらなかった。「自分が泳げないなら世界一の選手を育て上げる」と、指導やマネジメントという立場で力を注ぎ、生涯水泳に携わっていく。浜松中学校を卒業後、第一高等学校・東京帝

1911年(明治44年)、田畑が1年生の時の水泳訓練記念写真。この年は8月1日に開場、小遠泳や日本泳法の実演・競泳・夜相撲・スイカ取りなどの水上運動会も行われた。そして18日が村櫛沖から気賀までの大遠泳、入水時間は6時間20分、1年生の田畑も泳ぎ切った。21日に全訓練を終え、記念に撮影された集合写真だと思われる。



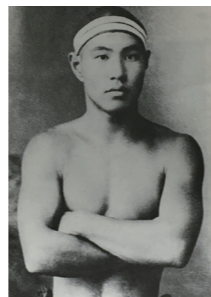
大現・東京大学へ進学するが、休みのたびに浜松へ戻り、水泳の指導と普及に力を注いだ。まず浜名湾を日本一にしようと、周辺の中学校などの水泳部を一つにまとめ、浜名湾水泳協会の設立に動いた。こうして日本最初の水泳協会が誕生し、強豪の茨木中学校(大阪)などに勝てる選手の養成に尽力するようになったのだ。



【田畑政治の生家】
生家は江戸時代から続いた造り酒屋。田畑家は大きな工場・商店・邸宅が立ち並び、浜松有数の資産家であった。地酒「東天」やサイダーを製造販売していた。サイダーは製造するのも販売するのも浜松では初めて。初めはみんなおっかなびっくりだったが、すぐに人気商品となったそう。



浜松中学時代、最上級生となった田畑らは、飛び込み台を浜名湖の中に設置した。地元ではこの飛び込み台のことを「しょうびん台」と呼んでいた。



日本初の五輪競泳選手の一員として、アントワープオリンピック(ベルギー)に22歳で出場した。内田正練。田畑の1年先輩である。(写真:「浜中 浜松一中 浜松北高水泳部百年史」より)



近代泳法クロールを導入 田畑率いる浜名湾勢、 日本一を目指す

当時、日本にはクロール泳法はなく、伝統的な日本泳法しかなかった。日本泳法は戦に備えるためのもので、水中で自由に動けるため、間泳ぎ続けることを追求したものであった。1920年、日本水泳界が初めて参加したアントワープオリンピックには、田畑と同じ浜松中学校出身の内田正練選手が派遣された。しかし、さすがは世界の舞台、日本泳法では太刀打ちできず予選敗退。また国内でも西伊豆で開催された全国競泳大会で、古くからブルを構え、クロール泳法をいち早く導入した茨木中学校(現・大阪府立茨木高等学校)が優勝し、浜名湾勢は完敗。そこで、協会の指導者だった田畑や内田千

尋(内田正練の兄)らは、日本一を目指すためにクロールの導入を決断した。そして浜名湾水泳協会会員の長谷川鉄雄は、地域の願いでもあつた100mブルを建設。まだ大学生だった田畑は、東京に住んでいるながら、そこで全国大会や合同練習を開催するなど革新的な取り組みを行った。その結果、1922年の全国大会で、ついに茨木中学校を破り全国制覇。これを契機に、浜名湾や田畑の名前が全国に知れ渡るようになった。1932年のロサンゼルスオリンピックでは、浜松一中在学中の宮崎康二が100m自由形と800mリレーで悲願の金メダルを獲得した。

ちょこっと豆知識

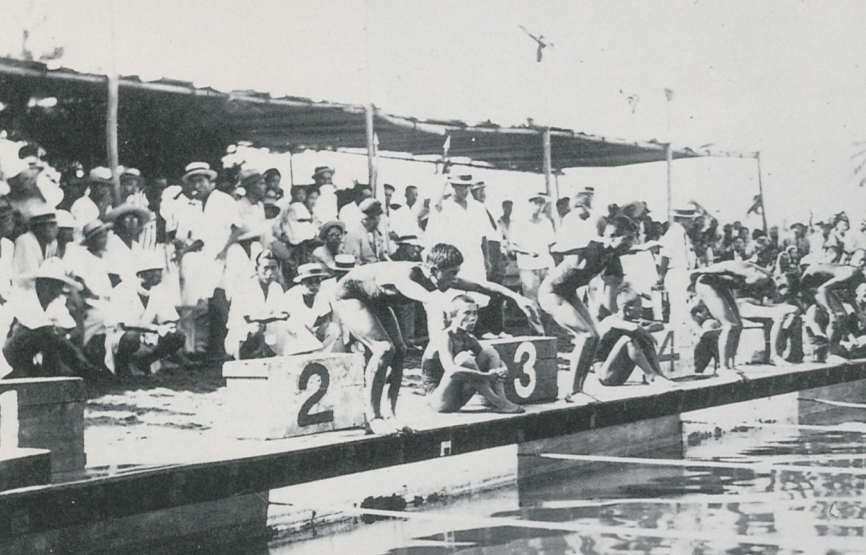
浜名湖独自の泳法「浜名湾流」とは?

日本泳法が浜松地域にもたらされたのは1900年(明治33年)頃。遠州学友会や浜松中学校(現・浜松北高)、浜松商業学校(現・浜松商高)、掛川中学校(現・掛川西高)などの水泳部が東京から師範を呼び、浜名湖で日本泳法を学び始めたのがきっかけである。当時は学校によって流派があつたが、浜名湾水泳協会の誕生により統一。神伝流と水府流太田派の泳法に、クロールや平泳ぎなどの競泳法を加えた、「神伝流浜松」と「水府流太田派浜名湾」が誕生した。水をかいた後に、体を動かさずに前進するのが特徴で、横泳ぎや立ち泳ぎ、潜水など約50種の泳ぎ方がある。

水泳を幼少期から始めると、頭が良くなる!?

浜松中学校に学んだ内田正練や田畑政治、同じく浜松一中の宮崎康二などは、まさに文武両道の生徒であった。中でも田畑は最難関の東京帝大(現・東京大学)卒。東大家庭教師友の会が著した『頭のいい子が育つ習い事』(角川書店)や「東大新聞オンライン」などによると、東大生が幼少期にやっていた習い事で、最も多かったのが水泳であり、6割の人が小学生時代に習っていた。「水泳は脳の空間認知機能が鍛えられ、図形に強くなる」、「負けん気が身につく」ともいわれている。

※1924年(大正13年)4月1日に浜松第二中学校(現・浜松西高等学校)が開校し、浜松中学校は浜松第一中学校(通称:浜松一中)となった。



弁天島に建設された横幅30m、長さ100mの海水プール(楽園プール)。毎年のように全国大会が開かれ、日本新記録も出るまでになった。(写真:「89舞阪町勢要覧 町制100周年記念号」より)

クロールの導入で日本一の座に!

